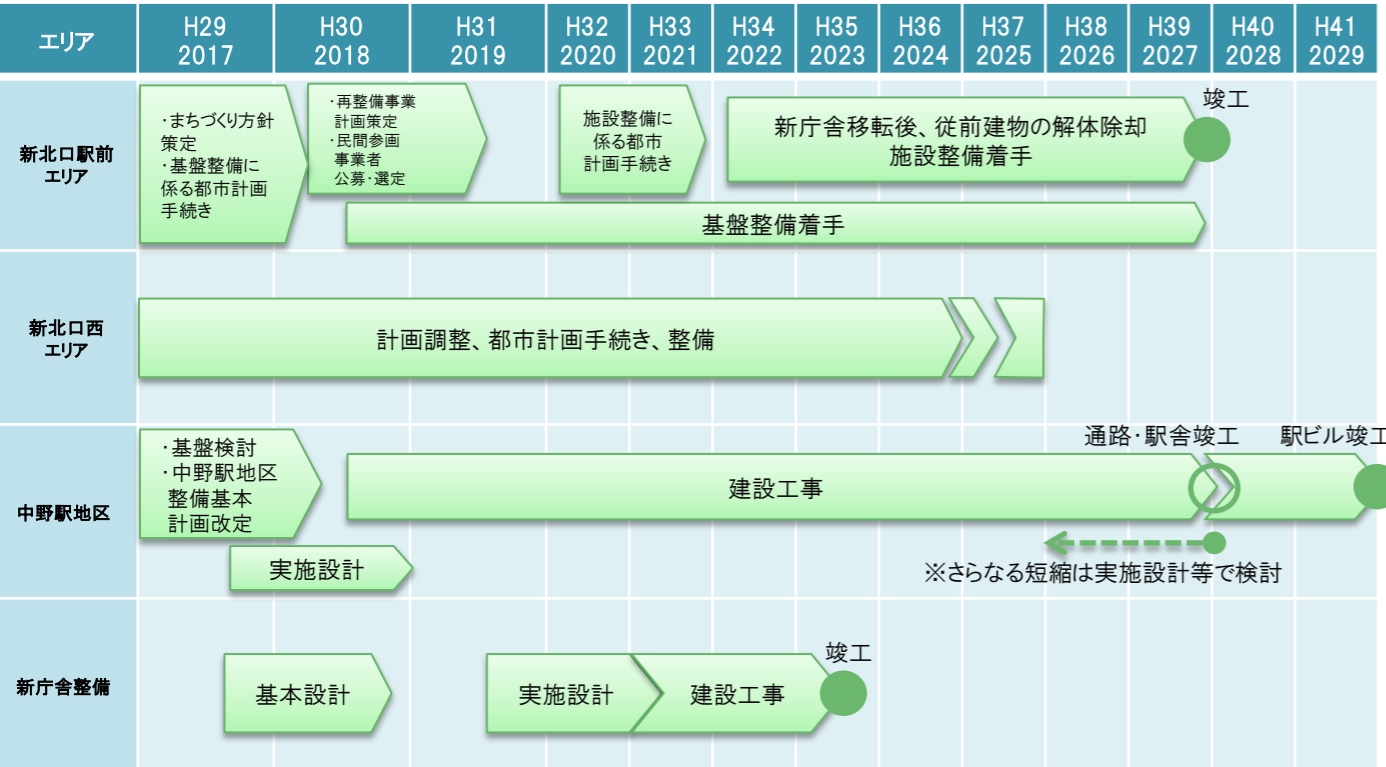
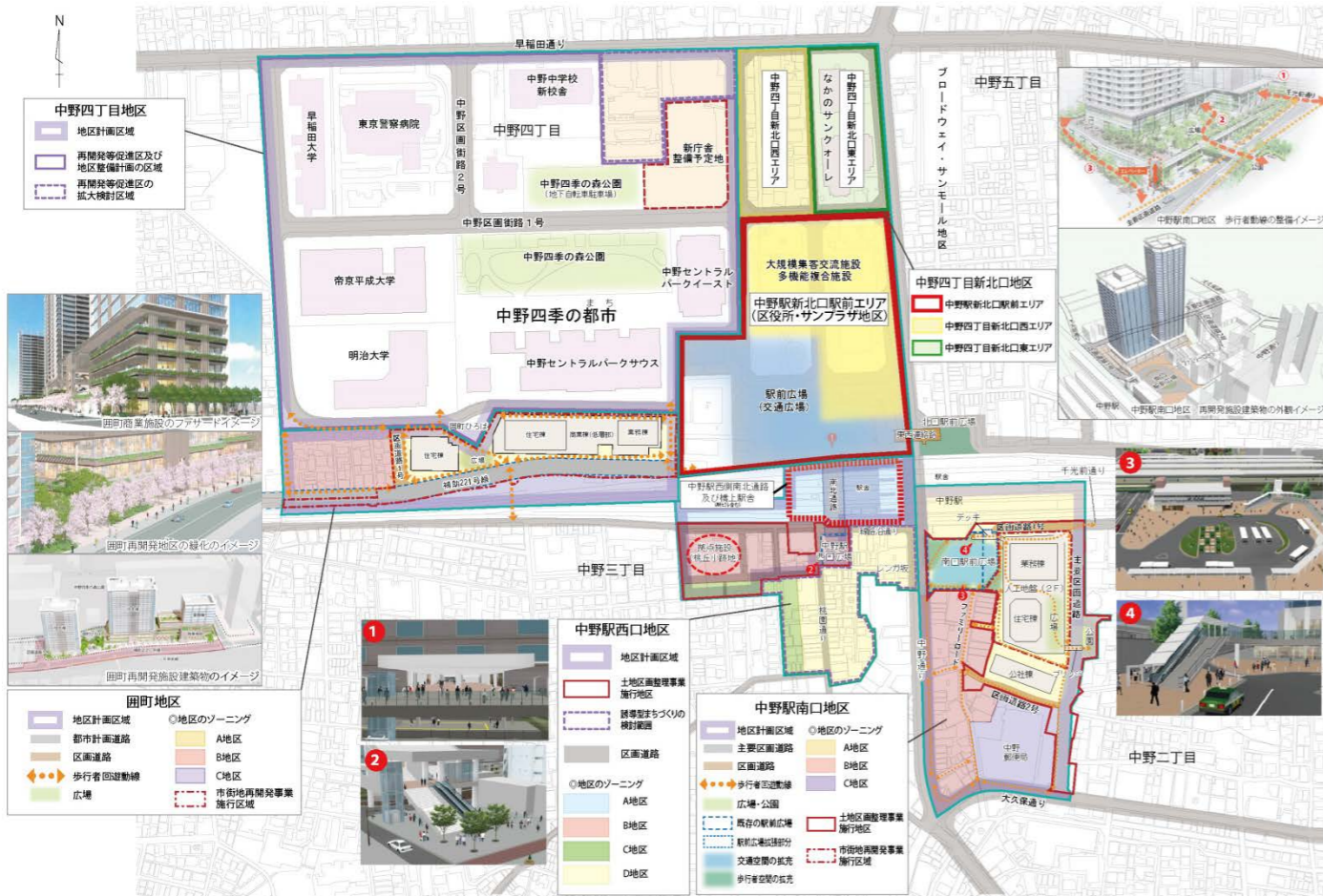


目標スケジュール

(年度)



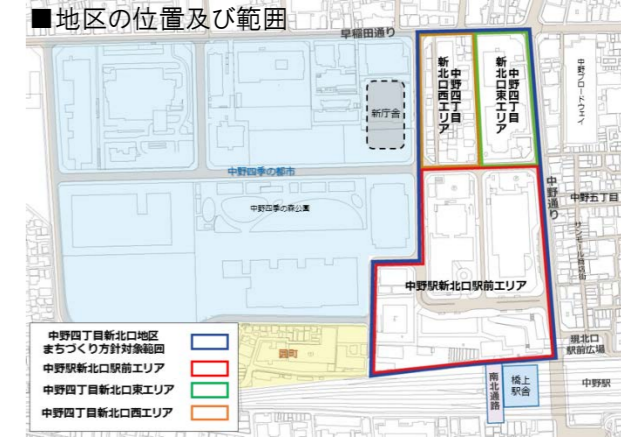
中野駅周辺まちづくり検討概要図



中野四丁目新北口地区まちづくり方針について

中野四丁目新北口地区まちづくり方針は、中野駅北西部にあたる中野四丁目のうち、東側に位置する約8ヘクタールを範囲とした地区を「中野四丁目新北口地区」とし、本地区における目指すべき都市像や土地利用、空間形成、公共基盤整備などの方針、その実現に向けた都市計画及び市街地開発事業の考え方を示すことによって、より良好なまちづくりへと誘導することを目的として策定します。

中野四丁目新北口地区のうち、南側街区を「中野駅新北口駅前エリア(区役所・サンプラザ地区)」、北西側街区を「中野四丁目新北口西エリア(中野四丁目西地区)」、北東側街区を「中野四丁目新北口東エリア(中野四丁目東地区)」とします。



中野四丁目新北口地区まちづくりの背景

中野駅周辺まちづくりの動向

- 中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer. 3に基づき、中野駅周辺各地区のまちづくりを推進。
- 中野四季の都市(まち)～新しい区役所の移転等
 - 中野駅南口地区～地区計画、土地区画整理事業等
 - 中野駅西口地区～地区計画、土地区画整理事業
 - 囲町地区～地区計画、第一種市街地再開発事業
 - 中野駅地区～中野駅西側南北通路及び橋上駅舎整備

まちづくりの主な経緯

- H24. 6 中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer. 3策定
- H27. 3 中野駅西側南北通路等に係る都市計画決定
- H28. 4 区役所・サンプラザ地区再整備実施方針策定
- H28. 12 新しい区役所整備基本計画策定
- H29. 3 中野四丁目西地区市街地再開発準備組合設立

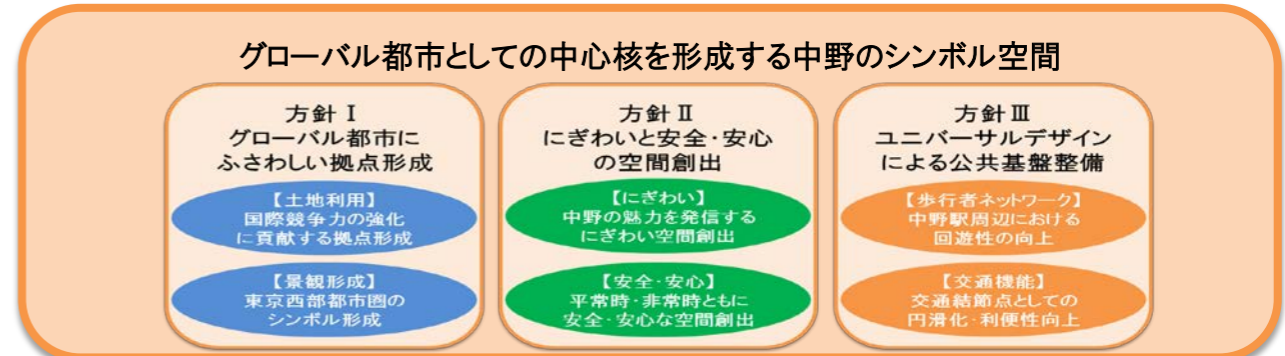
中野四丁目新北口地区の現況

- (1) 地形
- ・標高約40mのほぼ平坦な地形
 - ・中野通りとJR中央線が交差する付近が標高約34m
 - ・最大約6mの高低差がある地形
- (2) 土地利用
- ・中野駅新北口駅前エリア～商業地域、公有地中心
 - ・中野四丁目新北口西エリア～第1種住居地域、住宅中心
 - ・中野四丁目新北口東エリア～市街地再開発事業完了
- (3) 都市施設
- ・地区内の道路はほぼ都市計画道路で構成

まちづくりの必要性

- 【国際競争力の強化】
集客力と発信力のある都市機能の集積を図ることで、国際競争力の強化に貢献していくことが求められています。
- 【地域経済の発展をけん引】
都市と多摩を結ぶ立地特性を生かし、中野はもとより東京西部都市圏のシンボル空間として、地域経済の発展をけん引していくことが求められています。
- 【周辺各地区との回遊性の向上】
中野駅との機能的連携とともに、隣接する中野四季の都市や囲町地区、中野五丁目地区、早稲田通り北側との連携により、交通結節点としてのハブ機能を強化し、周辺各地区との回遊性向上を図ることが求められています。
- 【防災性の強化】
中野駅西側南北通路・橋上駅舎整備による避難動線の確保と合わせ、非常時における安全・安心な屋内外の空間整備によって、防災性の強化に寄与していくことが求められています。
- 【グローバル都市づくりの中心となる拠点整備】
中野駅新北口駅前エリアにおいて、グローバル都市づくりの中心となる拠点整備を計画しており、国際競争力の強化、地域経済の発展に資する都市機能が立地しやすい大街区化及び高度利用を図っていく必要があります。
- 【街区再編の必要性】
中野駅周辺において更なる交通環境の改善を図るため、安全で円滑な交通結節機能の整備に向けた街区再編を行っていく必要があります。

【中野四丁目新北口地区が目指す都市像】



グローバル都市としての中心核を形成する中野のシンボル空間

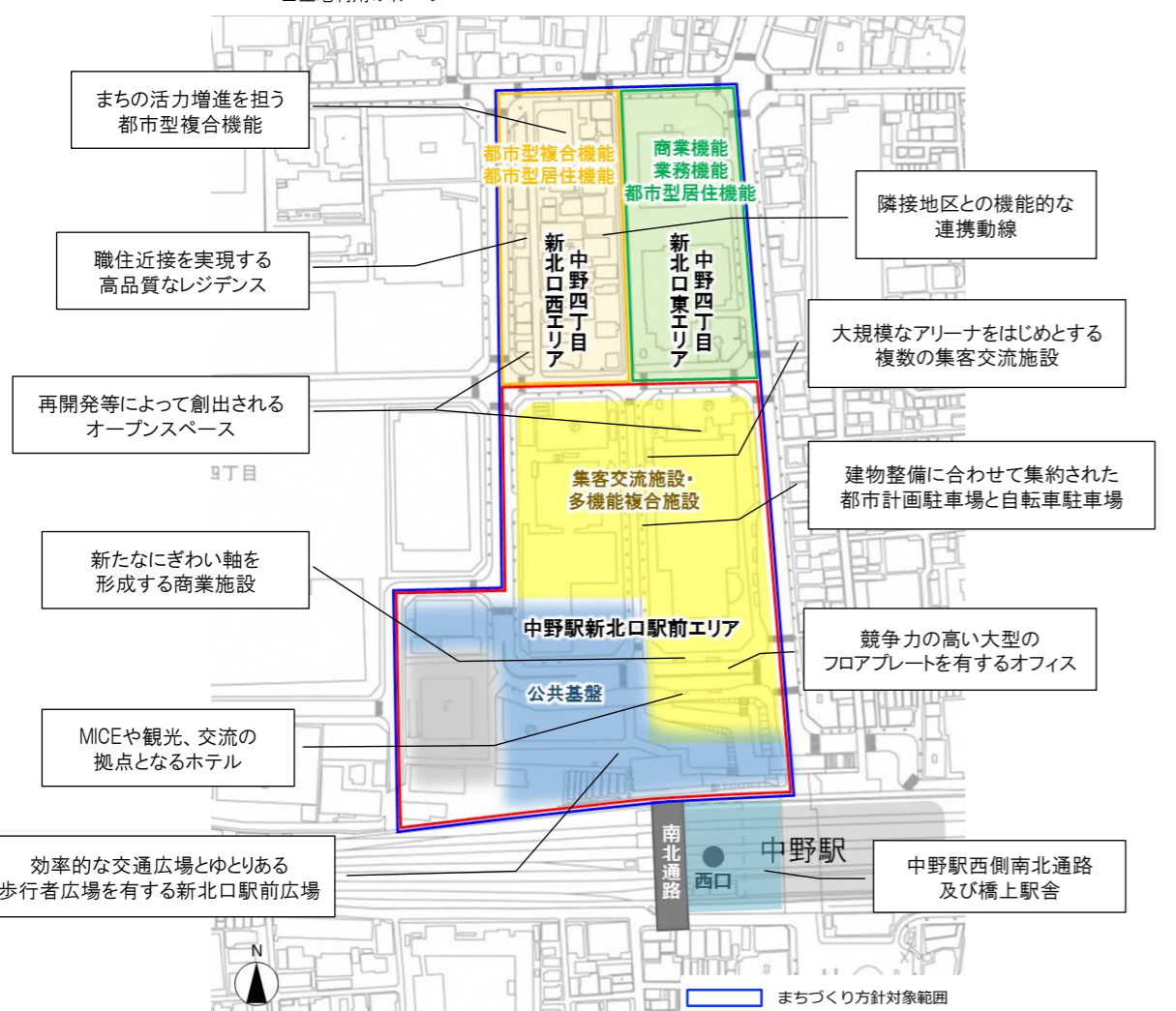
文化・芸術、経済、スポーツなどのグローバルな活動を支える多様な都市機能が集積する中心核を形成し、中野のシンボル空間として新たな価値と成熟したライフスタイルを発信し続けることにより、中野をはじめとする東京西部都市圏の活性化をけん引していくことを目指します。

【方針Ⅰ】グローバル都市にふさわしい拠点形成

- 大規模なアリーナをはじめとする集客交流施設や業務・商業・宿泊などの多機能複合施設により、地域経済の発展をけん引するとともに、国際競争力強化に貢献する拠点を形成。
- 職住近接につながる最高レベルの生活空間としてのレジデンス機能により職・住・遊のバランスのとれた市街地を形成。
- 一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき再開発促進地区として、立地特性を生かした高度利用を誘導。
- 中野のシンボルと同時に、東京西部都市圏の新たなシンボルとなる景観を形成。

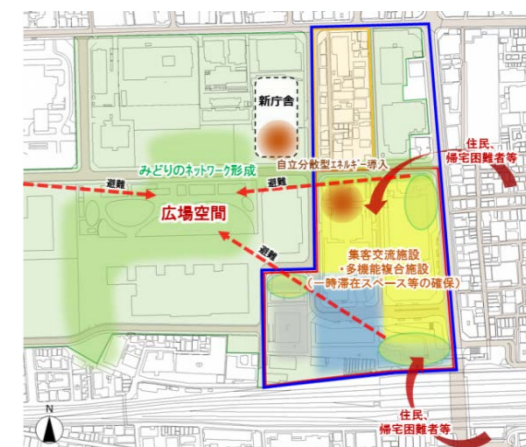
	中野駅新北口駅前エリア	中野四丁目新北口西エリア
土地利用方針	面整備事業や地区計画の導入、道路の都市計画の決定・変更によって街区再編を行い、安全で円滑な歩行者動線や滞留空間が十分に確保された駅前広場を配置するとともに、地域経済の発展、国際競争力の強化に資する都市機能が立地しやすい大街区化及び高度利用を誘導し、集客力・発信力のある拠点を形成します。	中野駅新北口の開設によって中野の顔となる立地特性を生かし、一体的な土地の合理的かつ健全な高度利用を図り、まちの活力増進を担う都市型複合機能を誘導するとともに、にぎわい創出と利便性向上に資する機能的な連携動線やオープンスペースの整備を誘導します。

■土地利用のイメージ



【方針Ⅱ】にぎわいと安全・安心の空間創出

- 多種多様な都市活動が繰り広げられ、中野の魅力発信し続ける駅・まち一体のにぎわい空間を創出。
- 充実した集客交流空間と歩行者ネットワークの整備・誘導によって、平常時、非常時ともに安全・安心が確保された空間を創出。
- ユニバーサルデザインによる多様な人に配慮した集客交流空間や情報環境空間の形成。
- 低炭素化につながる環境性や災害時でも業務継続できる防災性に優れた空間を創出。
- まちの価値の維持・増進に向けたエリアマネジメントを展開し、継続的な集客によってまちの活性化を図るとともに、来街者が安全・安心に滞在できるように、防災や防犯に向けた取組み促進。



【方針Ⅲ】ユニバーサルデザインによる公共基盤整備

- 中野駅西側南北通路等からつながる、だれでも安全で円滑に移動しやすいユニバーサルデザインによる歩行者動線の最適な配置により、中野駅周辺における回遊性を向上。
- 交通広場や自動車・自転車駐車場、滞留空間の機能的かつ効率的な配置により、中野の交通結節点としての利便性を向上。
- 歩行者デッキなど立体的な動線の確保により、交通の交錯を解消し、円滑化や安全性を向上。
- 円滑な歩行者動線を確保するため、公民連携による公共基盤整備を検討。

■主な歩行者ネットワークイメージ

